

関連項目：教育活動プラン①、②

自尊感情を高めるための学習支援・生活支援・施設との連携

目的

自尊感情を高めるために学習支援、生活支援に取り組み、社会の中で生きる力を育てることをめざす。このことが施設の児童や家庭教育力の弱い児童への支援にもつながり、学校全体の底上げとなる。

内容

● 学習支援

ここ数年、基礎学力向上のための手立てをさまざまな方法で実施している。学力が向上することは児童にとって自尊感情を高められる一つの方法だと考えている。その中の一つの改善方法として取り組んだのは、授業の最初に5分間の計算練習をするようにしたことだった。ねらいは集中力を高めて、落ち着いて授業に入ること、そして学力向上である。当初は、学習習慣が身に付かず四苦八苦したが、2ヶ月ほどすると自分でプリントを用意する児童も出てきて、徐々に無言で計算に取り組むようになってきた。最近では、学習意欲も高まり授業の様子も学習状況もかなり改善されてきた。

それ以外の活動も積極的に取り入れるように工夫している。学校全体で実施している漢字ドリルタイム・計算ドリルタイム・おさらい教室、また、青おにドリルを使って児童が自主的に学習できる場も設定している。そして、それぞれの学級が実態に合わせて、少人数・TT・個別を使い分けて指導していることで学習の幅も広がった。

● 生活支援

ここ数年、将来の自立に向けて「早寝・早起き・朝ごはん・正しいことばづかい」の習慣が身に付くように、生活がんばり週間を実施し、保護者自身にもチェックをお願いすることで家庭の意識啓発に努めた。また、「生徒指導だより」で生活に関するさまざまな情報提供も行った。そして、今年度は学校保健委員会で生活習慣の講演や指導を児童・保護者で聞き、生活習慣の重要さを再認識した。

また、学級でのなかまづくりの指導にも力を入れた。QU調査（年2回）を実施したり、複数の教師の見取りを参考にしたりして学級の状態を把握し、SSTの授業を行うことで改善に努めた。これらの情報は、全職員が共通理解するとともに、内容によっては施設職員の協力を仰ぐこともある。

そして、本校の教育活動の柱である人権教育を通して「いいとこ見つけ」「ありがとうカード」などの取組を積極的に推進し、児童どうしで自尊感情を高めるようにした。このような積み重ねの集大成が、前田小学校の第32回「人権について考える会」である。

● 施設との連携

長年、支援の充実を模索してきた中で、効果的なのは、やはり児童理解を柱とした個別支援である。これは、大学の先生の専門的な助言をいただきながら、学校と施設がいっしょになって協議や研究をすることで、より一層児童理解が深まり、さまざまな場面で個別の支援ができるような体制ができあがった。学校は、QU調査・児童支援カード・生徒指導委員会などで児童理解に努めたものを施設との協議や研究の場に持ち寄り、支援の拠りどころにしている。

また、日々の児童の言動にも素早く対応するために、担当教員が主となって学級担任と施設職員の連絡調整を密にすることで、学校や施設の中での支援に生かしている。そして、このことは児童が将来、社会の中で自立していくための支援を進めていく上で大事な連携である。

成果

学習支援では、学力の定着には不安を残すものの、算数の県版の平均点がかなり向上した。なにより、喜んで授業に来てくれる児童の顔に「ほっと」している。根気強く取り組んだ成果だと思う。

生活調査の状況も良好であり、学級でも学級生活満足群が増えたり、友だちに「ありがとう」のことがばかげが増えたりした。また、なにより保護者の意見を聞き、支援に生かされたことがとてもよかった。

施設との連携では、児童の個別支援が効果的に働き、落ち着いた生活状況を作り出すことができたケースも多々あった。このことは、お互いの信頼関係がしっかりしているからこそできた成果である。